

評価結果概要表

【評価実施概要】

作成日 平成20年10月28日

事業所番号	2773801291	評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
法人名	医療法人 健泉会	所在地	大阪市東住吉区山坂5丁目5番14-103号
事業所名	グループホーム 西松庵	評価調査日	平成 20 年 10 月 18 日
所在地	大阪府羽曳野市高鷲7丁目82番 (電話)072-953-1511	評価確定日	平成 20 年 10 月 31 日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年1月1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数 18人
職員数	31人 常勤 9人 非常勤 22人 常勤換算 11,2人

(2) 建物概要

建物の構造	鉄骨造り 2階建ての(1階～2階部分)
-------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	34,000円	
敷金	有 260,000円			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 240,000円 償却期間 2年 以後返金なし			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり		36,000円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	1名	要介護2	6名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 88才	最低	77才	最高	97才

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森クリニック・船内クリニック 芝池クリニック・しまだ耳鼻咽喉科
---------	------------------------------------

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

このホームは設立から間もなく3年目となりますが、3分の2の職員が設立初期からの勤続で、運営者の理念通り、医療に配慮された介護が行われ、利用者は明るい表情で毎日を過ごしておられる。食事は職員の栄養士の専門的視点から、季節感と栄養のバランスを考慮した献立で利用者に喜ばれている。また、地域の自治会組織との連携も着実に進められ、周辺地域での高齢化対応の拠点を目指そうとしている

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	毎日の介護に企業理念を活かすよう玄関、事務室にも理念を掲げて、ご家族、職員にも介護の基本とすることを明示している。職員の内外研修については、機会ある毎に実施済み。更に、運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、地域の方々との情報交流が深くなって来ている
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	管理者の指示の基に、計画作成者を始め職員が交代で評価項目を検討し、今後の改善案についても検討を行った。その上、管理者は自己評価を、更に個人ごとに自分で自分の知識、行動能力の自己評価が出来る基準提示の検討を進めている
	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
重点項目③	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、会議の席上での成果を活かして介護の改善に役立てている。更に管理者は、会議での自由な発言が、ホームの更なる改善につながると考え、会議内容の活性化を図ることを検討している
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
重点項目④	ご家族は支払いを兼ねて、殆ど毎月来訪されている。また、運営推進会議、家族会は2ヶ月毎に開催されており、その都度、ご意見や苦情があれば承り、管理者は直ちに対処している。また、羽曳野市の介護相談員による利用者との相談は、引続き月1回実施されている
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元自治会との交流が、徐々に改善されつつあるので今後に期待したい。施設でのボランティアの協力による各種の活動が、前年度から引き続き、ホームに併設のデイサービスとの合同で行われている。活動内容は 音楽療法、書道、陶芸、手芸、朗読、舞踊、ピアノ、三味線等、多彩な講座で、利用者は好みに合わせて、適宜に参加されている

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者第一とし、快適な時間と心ある介護を、提供することを理念として掲げている		
2	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念を施設内に掲示して、ご家族の目にして頂けるようにしている。職員には定例会議でも強調している		
2 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の諸行事にも参加している。また、ホームでの行事には参加を呼び掛けて、交流に努力している。	○	開所後まだ3年なので、地元の以前からの居住の方々との交流は長い眼で期待したい
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者を始め職員全員は外部評価の意義を把握しており、今回も職員が項目毎に検討を行い、改善についても意見交換を行ってきた		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催されている。今後の介護の向上のために、会議での活発な意見交換が更に出来るよう検討している		
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のご担当者とは、サービス内容について、質問などで話し合いをしながら、介護のレベルアップの参考としている		
4 理念を実践するための体制					
7	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や、時には電話で連絡を行っている。毎月の請求時には、必ず金銭管理の報告書を発送している		
8	15	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を概ね2ヶ月に1回開催し、ご意見や苦情等があれば、承るようにしている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則的に、各階の担当職員と、利用者との顔馴染みの関係が、途切れることのないようにしている。また、職員の入退職者は比較的少ない方である		

5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の経験に応じて介護に従事できるよう配慮している。更に管理者は、職員が自発的に介護業務の自己評価が出来るか、介護実施の手順や、ポイント等の評価方法の検討を進めている	○	職員が自己評価による介護レベルの目標設定が与えられることは、励みになるので、十分に検討を進めて欲しい
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	年4回 羽曳野市のグループホームの事業者連絡会が開催されており、その席上で意見の交換、情報の交流が行われている		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学やデイサービス利用の機会にグループホームの利用者と一緒に過ごす時間を設けるなど、徐々に馴染めるようにしている		
--	-------	--	--	--	--

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の簡単な手伝い、部屋の片付け、洗濯物の片付け等をする事で、関係を築くようにしている		
--	-------	--	---	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴や散歩の時などで本人の希望、意向等を聞くようにしている。言葉による確認ができない時は、表情や動きから把握している		
--	-------	---	--	--	--

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ホーム内だけのカンファレンスでは施設内、関係者との話し合いが中心であるが、必要時には本人や家族、主治医の意見を伺っている	○	職員の利用者一人ひとりの観察記録を集約できないか、経年変化を確認するためにも検討して欲しい。チームとしての作業になるので、時間を掛けて慎重に検討して欲しい
--	-------	--	--	---	---

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎の見直しを原則としているが、症状の変化を発見次第、関係者、医師とも話し合つて変更を行っている		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、事業所として出来る機能を活かし、柔軟な支援を行っている		
----	----	---	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	入所以前からの医師への受診については、適宜、支援をしている		
19	47	○ 重度化や週末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時にも、この件については本人、ご家族とも話し合っており、状況に応じて関係者に集まっていたり、方針を決めている。また職員へも情報を伝えている		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員とは日頃から話し掛けについて注意しあっている、記録の保管については、更に、改善することになっている		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に出来るだけ応じていけるように、常に前向きに検討し支援している		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の栄養士によって献立し、調理しているので、希望メニューにも応じてもらっている。また、利用者も出来る方には、盛り付け、配膳、片付け等の手伝いをしてもらっている		
----	----	---	--	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		○ 入浴を楽しむことができる支援			
23	57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴を楽しみにしておられる利用者もあり、時間も好みに応じるようにしている		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

		○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援			
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアによる集いが、5～8種類、月に何回か開催され、利用者は、適宜、好みの集いに参加している。また、ホームの外周には洋風、和風2つの庭があり、時期に応じて手入れや楽しみに利用されている		
		○ 日常的な外出支援			
25	61	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している	庭での気晴らし以外に、近所の散歩は、適宜支援している。介護の都合で少人数に限られているが、何とか改善したいと検討している		

(4) 安心と安全を支える支援

		○ 鍵をかけないケアの実践			
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設のデイサービスの利用者の出入りが、直ぐ横で行われているので、テンキー錠を利用している。また、一人の利用者が窓から出ようとするので、対応策を実施し、安静化を待っている		
		○ 災害対策			
27	71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員による避難訓練は実施している。しかし、緊急時の避難で、ご近所の応援期待については、開設3年目なので今後の課題としている		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

		○ 栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取カロリーは1600としている。体重管理と水分摂取量のチェックは出来ている		

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

		○ 居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新築のホームでもあり、また日常の行き届いた管理もあるため、室内環境は床暖房も含めて良好である。室内装飾も季節感のある飾りが、適宜、行われている。食事時にもバックミュージックが流され和やかな雰囲気である		
		○ 居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室は、新しい建物に合った家具類を各自が自由に持込んで、生活を楽しんでいる		